



## 研究開発最前線特集に寄せて

株式会社富士通研究所 代表取締役社長

# 村野和雄

インターネットを基盤とする情報通信革命の飛躍的な進展により、世の中の動きや産業構造は大きく、そして急激に変化しています。この変化を先取りし、新しい価値やソリューションをお客様や未来社会に提供し続けるために、富士通研究所は21世紀型研究所を目指した活動を推進しています。21世紀の研究開発では、「科学」と「技術」に加えて、「ビジネスモデル」と「企業の社会的責任」が重要になると考えています。研究者自身が、研究成果を活用する「ビジネスモデル」まで考えることが、新しい事業やイノベーションを生み出す大切な要因の一つです。また最近、技術の急速な進展が社会システムや地球環境に及ぼす影響を、無視できなくなっています。研究開発の成果を求める際には、地球環境への配慮や大規模な社会システムの順行運用を考慮することは不可欠です。安心・安全な未来社会を実現するために、「CSR (Corporate Social Responsibility : 企業の社会的責任)」を果たすことが重要です。

富士通研究所は、“全てをつなぐことで価値を生み出し、その価値で人々に「感動」、「発見」、「信頼と発展」を提供する、ヒューマンセントリックなネットワーク社会を実現していく”ことを、10年ビジョンとして掲げました。10年先から現在を見て、同時に現在から将来を見て研究開発ロードマップを描いています。このロードマップを技術経営の基軸として位置付け、研究所全体で情報共有して、技術を追究していきます。

また、市場変化に伴う顧客価値創造を実現する新しい技術の開発や実用化をスピードアップするために、得意領域を持つ他社や、基礎的な幅広い知見を持った大学との連携、すなわちオープンイノベーションの考え方で取り組む必要があります。

このようなオープンイノベーションにはグローバルな視点が欠かせません。現在、米国・中国・欧州に研究拠点を設け、グローバルな研究体制を強化しています。海外拠点では様々な背景を持った研究者を擁し、地域の特色を生かしながら、多様な発想を持ち寄ることで、より豊かな研究成果を生み出すことができます。

富士通研究所は、ICTインフラを進化させる最先端テクノロジーの研究開発を継続的に深耕するとともに、ビジネスや生活の現場を変革していくユビキタス技術、新しい価値を生み出す種となる材料・デバイス分野の技術、環境・エネルギー問題に貢献する技術などを、グローバルな体制で創造していきます。

本特集号では、富士通研究所のR&D戦略、海外拠点の活動状況と併せて、これらの研究開発の取組みの一端をご紹介します。